

## 再評価結果（令和4年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・技術課

担当課長名：長谷川 朋弘

<b>事業名</b> 一般国道3号 <small>とすく るめ</small> 鳥栖久留米道路	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 九州地方整備局	
<b>起終点</b> 自：佐賀県鳥栖市高田町 至：福岡県久留米市東合川五丁目	<b>延長</b> 4.5km		
<b>事業概要</b> 鳥栖久留米道路は、国道3号の交通混雑緩和や交通安全性の向上等を目的とした事業である。			
H19年度事業化	H18年度都市計画決定 (H一年度変更)	H21年度用地着手	H23年度工事着手
全体事業費	約387億円	事業進捗率 (令和3年3月末時点)	約57%
		供用済延長	0.0km
計画交通量	21,400～28,500台/日		
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 1.3  (残事業) 3.1	<b>総費用</b> (残事業/事業全体) 171/393億円 (事業費：149/371億円 維持管理費：22/22億円)	<b>総便益</b> (残事業/事業全体) 522/522億円 (走行時間短縮便益：464/464億円 走行経費減少便益：44/44億円 交通事故減少便益：13/13億円)
<b>感度分析の結果</b> 【事業全体】交通量：B/C=1.003～1.7 (交通量 ±10%)      【残事業】交通量：B/C=2.3～3.8 (交通量 ±10%) 事業費：B/C= 1.3～1.4 (事業費 ±10%)                      事業費：B/C=2.8～3.4 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C= 1.2～1.5 (事業期間±20%)                      事業期間：B/C=2.7～3.4 (事業期間±20%)			
<b>事業の効果等</b>			
①交通混雑の緩和 ・国道3号の通過交通が転換することで、交通混雑が緩和される。 ②交通安全性の向上 ・国道3号の通過交通が転換することで、交通混雑が緩和し、交通安全性の向上が期待される。 ③物流効率化の支援 ・所要時間の短縮が図られ、更なる物流効率化の支援に寄与することが期待される。 ④救急医療活動の支援 ・二次医療施設への救急搬送時間の短縮が図られ、救命率向上に寄与することが期待される。 ⑤地域活性化の支援 ・交通転換が図られ、国道3号を含む周辺道路の交通混雑の緩和、交通安全性の向上、防災機能の向上に寄与することで、更なる地域経済の活性化が期待される。 ⑥生活環境の改善 ・自動車の走行性向上による環境への影響低減 (CO <sub>2</sub> , NO <sub>2</sub> , SPM削減)			
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 久留米市をはじめとする4市2町で構成される一般国道3号改良促進期成会（会長：久留米市長）等により、早期整備の要望を受けている。（令和3年10月） 県の意見： 【福岡県】一般国道3号は、福岡県の北九州市と八女市を結ぶ縦断軸として人流・物流を支える非常に重要な幹線道路である。鳥栖久留米道路は、久留米市街地の交通混雑の解消を図るだけでなく、県南地域の発展に大きな弾みをつけ、更には県全体の経済的な発展に寄与することが期待される。従って、「対応方針（原案）」のとおり事業を継続すべきと考える。今後もコスト削減に努めていただくとともに、本事業が早期に完了するように事業の推進をお願いしたい。 【佐賀県】整備を強く望んでいるところであり、継続することについては、異論ありません。小さな都市が分散している当県において、地域や産業の活性化のため、有明海沿岸道路、佐賀唐津道路などの広域幹線道路と、これを補完する国道3号、国道34号などで形成される幹線道路網の整備に取り組んでいます。また、令和3年6月には、本県の現状や将来像を踏まえ佐賀県新広域道路交通計画を策定し、国道3号については一般広域道路に位置付けたところです。国道3号は、県東部地域の主要幹線道路ではありますが、交通混雑が恒常化し、交通事故も多く発生しています。当該整備事業は、交通渋滞の緩和、交通安全性の向上、物流効率化の支援等を目的とされており、交通渋滞や交通事故が解消され、佐賀県の施策にも寄与することから、引き続き整備を進めていただきたいと思います。事業費の増加はやむを得ないものの、今後ともコスト削減に努めていただくとともに、早期整備に努めていただきたいと思います。			

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は横這いであるが、一世帯あたりの自動車保有台数は、福岡県・佐賀県合計及び九州全体に比べ多く、自動車交通への依存は高い。

国道3号現道の交通量に大きな変化はなく、依然として事業の必要性は高い。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成19年度に事業化、用地進捗率約90%、事業進捗率約57%（令和3年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事の事業進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

地盤改良対策の見直し、橋梁下部工における基礎杭の見直し、宝満川橋の仮設構造（仮締切堤）決定、工事用道路の見直し、道路排水流末処理の見直し、他事業からの流用土。

新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。